《教育理念》

本校は、社会保障制度の中でも地域医療、地域包括ケアの担い手として、保健・医療・福祉の向上と、地域社会の多様なニーズにこたえ、人々の生活を支えることができる看護実践者の育成をめざし設立された。本校では、学生が地域医療、地域包括ケアをはじめとする社会保障制度に深い理解を持ち、看護に関する幅広い能力と豊かな人間性を兼ね備えた看護実践者となることを願っている。

看護は、対象である人間を身体的・精神的・社会的・霊的に統合された存在としてとらえ、あらゆる発達段階、健康状態にある人々に対し、その人らしく日常生活を営めるように援助することである。この考えに基づき、対象の人権を尊重し、安全で安心できる看護を実践する看護師の育成をめざしている。

具体的には次のような人材を育成する。

１．基礎的知識や技術を習得し、科学的思考力と判断力をもった看護師の育成。

２．豊かな感性と創造性を育み、倫理観をもって看護実践ができる看護師の育成。

３．生命に対する深い畏敬の念をもち、専門職業人として、対象の生きる権利、尊厳を保つ権利、敬意ある対応を受ける権利、等の人権を尊重できる看護師の育成

４．対象の自己決定を支援できる看護師の育成

５．自己研鑽に努め、看護の発展に貢献できる看護師の育成

学校は、学習者が主体的に行動できるように動機づけ、支援する役割を果たす。また学習者と教育者は教育のプロセスを通じ、相互作用のなかで共に向上を目指し、共に切磋琢磨していくことを基本姿勢とする。

《教育目的》

看護師として必要な基礎的知識、技術、態度を習得し、生命の尊厳と人権の尊重をもとに、その人らしく生きることを支える看護の専門職業人を育成し、保健・医療・福祉の向上と地域社会に貢献できる有能な人材を育成する。

《教育目標および卒業生の特性》

教　育　目　標	卒　業　生　の　特　性
１．看護の対象である人間を総合的に理解できる。	１．人間の特性について理解できる。 ２．看護の対象である人間を成長発達段階からとらえることができる。 ３．看護の対象をあらゆる健康レベルからとらえることができる。 ４．看護の対象を生活者として捉え、自然・社会・文化的環境との相互作用の観点から理解できる。 ５．看護の対象を身体的、精神的、社会的、霊的側面から統合された存在としてとらえることができる。 ６．生命の尊厳について理解できる。
２．対象の健康上の課題に対応するため、科学的思考に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。	１．科学的根拠のある安全で安楽な看護の実践ができる。 ２．対象の健康状態、障害の状態に応じた看護が実践できる基礎的能力をもつ。
３．保健・医療・福祉におけるチームの一員として、チームメンバーとの良好な関係が持てる。	１．看護の対象の健康上の課題について、看護チーム内で連携・協働できる基礎的能力をもつ。 ２．他の職種との関係形成ができ、チーム医療を実践できる基礎的能力をもつ。 ３．社会資源を活用するための基礎的能力をもつ。
４．地域で暮らす人々の健康と生活を支える役割と 看護を果たす基礎的能力を養う	１．社会保障制度の基本的理念が理解できる。 ２．社会保障制度を活用し、地域住民の保健・医療・福祉の向上に向けて活躍できる基礎的能力をもつ。
５．専門職業人としての自覚と責任感をもち、常に自己研鑽する態度を身につける。	１．専門職業人として倫理観を持ち、対象が心からの癒しと満足が得られるような看護が提供できる。 ２．自己を振り返りつつ、自己学習能力を高めることができる。 ３．看護の向上をめざし、看護を継続して探求する姿勢をもつ。 ４．自己の看護観を明確にし、発展させることができる。 ５．看護をめぐる状況の変化に対応するために、自己啓発・自己成長できる素地を養う。
６．人間愛を基盤とした調和のとれた幅広い人間性を身につける。	１．豊かな感性を養い、創造性を高めることができる。 ２．人間性を尊重し、共感をもって接する態度をもつ。 ３．社会の動向に関心をもち、国際的視野に立って、活躍できる基礎能力をもつ。

《概念規定》

本校では、カリキュラムの主要概念を人間・健康・環境・看護・教育の 5 つにおき、下記のように規定する。

《人間》

・人間は、成長・発達し続ける存在である。
・人間は、身体的・精神的・社会的・霊的側面をもった統合体であり、生活している存在である。
・人間は、自然・社会・文化的環境との相互作用により、絶えず変化している存在である。
・人間は、感情と理性と思考能力をもち、ニーズを充足しながら、社会の中で生活している存在である。
・人間は、社会の中で役割をもちながら自己実現を目指す存在である。

《健康》

・望ましい健康とは、身体的・精神的・社会的・霊的にバランスのとれた状態であり、その人らしい生活を送り自分の能力を最大限に発揮できる状態である。
・健康には、最良の状態から死までの連続的なレベルがあり、常に流動している。
・健康は、人間が生きていく上での基本的権利であり、社会のシステムのなかで保護されるべきものである。
・健康は、時代や文化、個人の価値観により異なる。

《環境》

・環境は、内部環境（個体)、外部環境（自然・社会・文化的環境）の総合であり、人間も環境の一部である。
・外部環境は、物理的、化学的、生物的、社会的、文化的環境に分けられる。
・外部環境は、人間の内部環境に直接的、間接的に作用し、人間生活に影響をあたえる。

《看護》

・看護はあらゆる成長発達段階にある個人と、その家族または集団を対象とする。
・看護は、その人がその人らしくあるように、健康の保持・増進・回復そして生と死に関わることである。
・看護は、対象との人間関係を基盤として、日常生活を整え、セルフケアができるように援助することである。
・看護は、健康上の課題を明確にし、その課題を解決するために科学的根拠に基づいて系統的に働きかけることである。
・看護は、専門職として独自の機能を有し、保健医療福祉チームの中で仲介・調整の役割りを担う。
・看護は、その時代の社会の変化にあわせ人々の多様な保健医療のニーズに対応するものである。
・看護者は、対象の生命を畏敬し、人間性を尊重し倫理観に基づいた行動をとる人である。

《教育》

・教育とは、人間の人間に対する目的意識をもった人間形成への働きかけである。
・教育とは、学習者の可能性を引き出しその可能性を学習者自身が主体的に伸ばしていけるようにすることである。
・教育とは、学習者と教授者との相互作用のなかで共に成長していく過程である。

カリキュラムの構造

１．基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ・Ⅱ、統合分野の学習のねらいと位置付け

教育課程は、看護の基本概念である〈人間、健康、環境、看護、教育〉をもとに、基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱ、統合分野の５分野で構成されている。

《基礎分野》: 専門基礎分野、専門分野の基礎となる科目であり、看護の対象である人間と人間をとりまく環境に対して、さまざまな領域の学問の学習を通して、ものの見方、考え方を学び、コミュニケーション能力を高め専門職業人として生涯にわたり幅広い人間形成をはかる基礎とする。

《専門基礎分野》:専門分野である看護学の学習に必要な知識や考え方の基礎になる科目である。主に医学的側面と社会的側面から人間のライフサイクルと健康について系統立てて理解し、健康・疾病に関する観察力、判断力を養い、看護援助の理論根拠とする。

《専門分野》: 基礎分野、専門基礎分野で学習した、「人間と人間をとりまく環境、人間のライフサイクルと健康」に対する知識を総合的に理解・活用し、対象に応じた看護を実践できる基礎能力を修得する。

専門分野Ⅰ

基礎看護学は、看護における最初の専門分野であり、各看護学及び在宅看護論の基盤及び発展していく導入部である。看護の豊かさや奥深さをイメージでき、各看護学への学習の動機付けとなることを目指す。さらに、看護の実践能力の基礎となるような内容とする。

基礎看護目的・対象論では専門職としての看護とは何か、看護が果たす役割とは何かを理解する。さらに、臨床等で出会う看護の対象を生活者として多面的にとらえ、看護を実践するための基礎的知識とする。また、看護実践をする上で欠かせない生命や職業に対する倫理観をはぐくむ内容とする。

基礎的看護技術は、共通基本技術、日常生活を整える看護技術と診療に伴う看護技術、および看護過程の展開の技術で構成される。各看護学すべての基盤となるような内容とする。さらに、臨床看護総論は今日の臨床の現状をふまえ、各臨床領域の看護学を学ぶために、共通の基本的な看護について学び、各看護学に発展・拡大することをねらいとした科目である。看護研究の基礎は、よりよい看護を提供するために、専門職として研究することの意義を理解し、今までの知識、技術をもとに研究し、看護の発展に寄与する必要性を理解する。また、看護の実践を科学的に研究し、改善していくための学習となる科目である。

専門分野Ⅱ

成長発達段階を軸として小児看護学、成人看護学、老年看護学を、ライフステージを通したまとまりとして母性看護学、精神看護学を設定している。専門分野における各看護学の内容構成の基本的な考え方は、各看護学における看護の対象および目的の理解、予防、健康の回復、保持増進および疾病・障害を有する人々に対する看護の方法を学ぶ内容とした。臨地実習ではチームの一員としての役割を理解し、保健医療福祉との連携・協働を通して看護を実践できる能力を養う。

《統合分野》: 基礎分野、専門基礎分野、専門分野Ⅰ、専門分野Ⅱで学習した内容の知識や技術を統合し、在宅や臨床現場の状況に即した看護が提供できる能力を養う

科目とし、専門科目のうえに位置付けた。

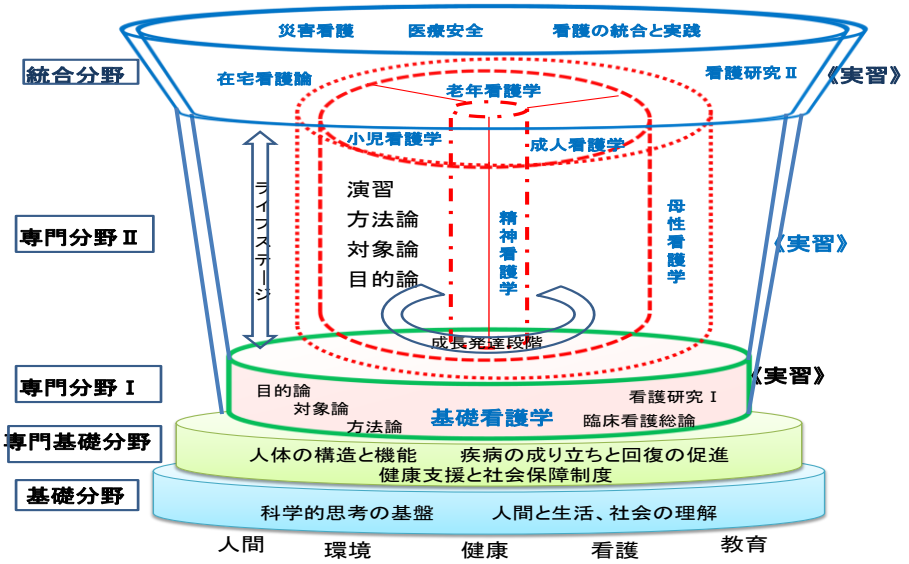
統合分野は、「在宅看護論」と「看護の統合と実践」で構成される。「在宅看護論」は医療を取り巻く環境の変化により、医療サービスの提供のあり方が在宅に大きくシフトしていることをふまえ、対象者が在宅でその人らしく生活し、最後を全うできるような看護を学ぶ内容とした。また、他職種と協働する中で看護の役割を理解することをねらいとした。「災害看護」や「医療安全」は、社会における看護の役割やチーム医療における看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する。「看護の統合と実践」では、看護をマネージメントできる基礎的能力を養う科目とした。

《臨地実習》: 基礎看護学実習を各看護学の基盤として位置付け、各看護学の実習は、基礎看護学で学んだ知識・技術を活用しながら、各看護学に特徴的な看護の内容を学ぶものとして位置付けた。各領域の保健医療福祉に関連した実習施設で学ぶ。統合分野における臨床総合実習は、各看護学での実習をふまえ、臨床に即した看護実践や看護チームの一員としての役割の理解、看護管理の基礎を学ぶ実習とした。

2．カリキュラムの構造およびデザイン

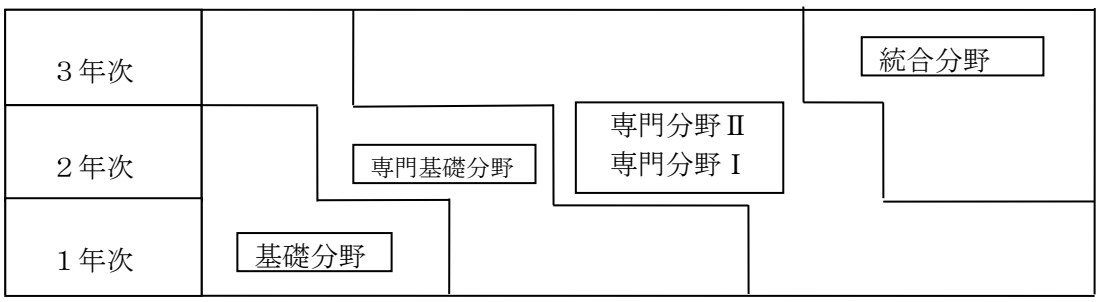
専門分野の看護学で統合が図れ、さらに統合分野においてより拡大できるように構築している。

教育課程の構造図



基礎分野・専門基礎分野は人間形成・看護の科学的実践活動の基盤となるものとして、専門分野の学習と統合・発展させながら学んでいくため、専門分野の土台と位置づけた。

基礎看護学は、その知識と技術を各領域の看護の学習の基盤となり、さらに連動しながら各領域及び統合分野へと発展していくことをあらわしている。専門分野Ⅱにおいては、小児・成人・老年看護学を発達段階別の領域とし、精神看護学や母性看護学はライフステージ全体に関わることを意味し、精神看護学は中心に、母性看護学は取り囲むようにあらわした。「統合分野」については、基礎看護学から「統合」できるように考え、積み重ねの連続性と最終段階での統合と考え図式化した。

各分野間のカリキュラムデザインは、積み上げ型および漸進型プログラムの混合とした。

カリキュラムデザイン